

実践 と 対話 の 心 理 学

教育開発推進機構・内村慶士助教

臨床心理学の専門家に
相談するというと、まる
で一大事のようなイメ
ジを抱いてしまってい
ないだろうか。内村慶士・
教育開発推進機構助教が
体現しようとしているの
は、もっと気軽に、そし
てフランクに相談にい
ける相手としての、臨床
心理学の実践者だ。

5面に続く

研究
者
に
聞
く

陸上競技部 箱根駅伝壮行会

“はばちかす～想いの継承、そして革新へ～”
を掲げ初の総合優勝を目指す



第102回東京箱根間往復大学駅伝競走(以下、箱根駅伝)が、令和8年1月2、3日に開催される。国学院大学陸上競技部は今年10月の出雲駅伝で大会2連覇を達成し、11月の全日本大学駅伝では4位となった。箱根駅伝では前回大会で総合3位と、7年連続でシード権を獲得している。10年連続19回目の出場となる今大会では、同部は「はばちかす」想いの継承、そして革新へ」というスローガンを掲げ、総合優勝を目指す。このスローガンには、前回届かなかった箱根駅伝総合優勝への思いを継承し、主将の上原琉翔選手(健体4)が率いるチームで革新を遂げて国学院大学の名をとどろかせたいという意味が込められている。

11月16日に行われた上尾シティハーフマラソンでは、青木瑠都選手(健体4)が1時間45秒の大会記録で優勝し、野田顕臣選手(健体1)がU20日本記録で6位に入賞したほか、22日の八王子ロングディスタンスでは野中恒亨選手(健体3)が1万メートル日本人学生歴代6位の記録で走り、本学最速記録を更新。箱根駅伝に向けチームは勢いに乗る。

12月12日には渋谷キャンパスで壮行会が行われ、針本正行学長から上原主将に激励とともにたすきが手渡された。前田康弘監督が「今年のチームは、上級生を中心に非常に愛と信頼感のあるチーム。当日まで全身全霊で準備をしたい」、上原主将が「はばちかす」のスローガンのもと、総合優勝を目標にして1年間練習に取り組んできた。堂々とスタートラインに立ちたい」とそれぞれ意気込みを語った。

K:DNA I面に関連記事

全国各地で発生した大規模火災で被災された皆さまへ

大分市佐賀関の大規模火災や青森県東方沖地震に伴う災害のほか、自然災害により被災された皆さまに衷心よりお見舞い申し上げます。被災された学生やそのご家族の皆さまをはじめ、被災地の皆さまの生活が一日も早く平常に復するよう、心よりお祈り申し上げます。 令和7年12月20日 国学院大学

み はるかすもの

11月30日にホームカミングデーが開催された。

平成21年度に開催した第1回以来、順調に参加者数を伸ばしている。今年度は学生団体の参加が増加したほか、院友会各支部の協力があり、例年より多くの物産展が並んだ。今回は、久しぶりに若木育成会キャンパス見学会を同日に開催し、学生、卒業生、御父母が渋谷キャンパス、横浜たまプラーザキャンパスに集う機会となった▼ところで、我が国では年越しの風習として、一家団欒で年越し蕎麦を食べ、一年の厄落としをしようという風習がある。海外でも年越しに纏わる様々な風習はあるが、一家団欒で年越し蕎麦を食べるというそれは、日本独特のものであるようだ▼「団欒」という言葉は、中国の南宋時代に由来し、今から9

00年ほど前の漢詩に登場したのが初めてであるとされる。「団」は「まるい」「ひとかたまりに集まる(集団)」、「欒」は訓読みでは「おうち」「まるい」となっており、球形で堅い実が全体にまとわりつくように無数に生える「ムクロジ科の木の名(種子は数珠に使用される)」を示す。これらのことから「団欒」とは「人々が集まって、楽しく語り合うこと(難読語辞典)と解されるようになったとされている。学生、卒業生、御父母が一堂に会して語り合う機会であることに鑑みれば、ホームカミングデーは大学における「団欒」の機会と言えるかもしれない▼この渋谷 この横浜にて学びゆく 集う成果が 未来を創る／本学で学んだ個々の成果は、いずれ一人ひとりの人生を照らし、ひいては本学の未来を輝くものにするはずである。課外活動の成果もまた然り。

今年のご愛読に感謝して、新年のご多幸を祈念しつつ。

第6回観光まちづくりフォーラム

次世代につなぐ観光まちづくりを議論



第6回「観光まちづくりフォーラム」は、持続可能な地域の実現に向けて、11月5日、渋谷キャンパス常磐松ホールで、対面とオンライン配信のハイブリッド方式で開催された。

このフォーラムは、観光まちづくりに携わる関係者らを招き、民間と行政の協業による取り組みに焦点を当て、持続可能な地域の実現に観光がどのように関わるか、議論を深める場として、観光まちづくり学部の主催により毎年実施している。

第1部では、針本正行学長のあいさつを西村幸夫・同学部長（教授）が代読。同学部では全国の地域と包括連携協定を締結し、教員や学生が地域を直接訪問して「地域をみつめる」ことを実践していると述べ、支援についての感謝の意を表した。来賓の桑野和泉・日本旅館協会会長は「観光まちづくりの学問が地域社会の指針になることを願う」とあいさつ。続いて西村学部長が、学部創設から完成年度を迎えるまでの歩みや学部の概要を説明した。

第2部のシンポジウムでは、「次世代につなぐ観光まちづくり」をテーマにパネリストが、それぞれの地域での取り組み事例を発表した。後半は、西村学部長がモデレーターを務め、パネリストの3人と学部生2人も登壇し、議論を深めた。写真。6人の登壇者は、活動を通して感じた課題や、地域との関わりの中で大切にしている理念を述べた。学生も積極的に議論に加わり、意見を交換した。

文化講演会

古典文学から紐解く、現代の「ことば」の可能性



国学院大学エクステンションセンター主催の令和7年度文化講演会が11月15日、渋谷キャンパス常磐松ホールで開催された。今年度の講演会は「ことばの灯をつなぐ―古典文学から紐解く昔と今」と題し、文芸評論家で作家の三宅香帆氏と、本学文学部卒業生（院友）であり、タレントで作家の宮田愛萌氏（令3卒・129期日文）が、現代においても色あせない古典文学の魅力について語り合った。写真。

両名は古典文学の楽しみ方や読むことの意義について話を弾ませ、三宅氏が「古典文学で描かれる登場人物の暮らしや心情

は、現代を生きる自分たちに通じる部分も多くあり、そこに面白さを感じる」と古典文学の魅力をつづった。続いて、自身の執筆活動についての話題では、宮田氏が「特にセリフとなる部分では、同じ動詞でも場面によってひらがなや漢字を使い分けて表記をあえて統一しないことを意識し、登場人物の感情が伝わるようにしている」と、こだわりを明かした。

終盤には質問コーナーが設けられ、両名が参加者から事前に寄せられた質問に回答した。「もし教員として古典を教える立場であつたら、どのような教え方をするか」という質問には、三宅氏が「教科書にのっている内容だけでなく、余談の部分も伝えることで面白さをより感じてもらえるのではないかな。まずは、漫画やアニメなどを入り口として古典に触れてみると楽しめるように思う」と回答した。また、古典を読む際のポイントについて問われた宮田氏は「和歌などは自分で訳してみると新しい解釈に触れることができ、自らひも解いていく面白さがあるのではないかな」とアドバイスを送った。会場の参加者らは熱心にメモを取りながら講演に耳を傾け、古典文学への関心を深める様子が見られた。

特別講座「渋谷学」第4回

渋谷の変遷と未来を語る



国学院大学エクステンションセンター主催の特別講座「渋谷学」が10月15日から11月12日にかけて行われた。本特別講座は、平成14（2002）年に創立120周年記念事業として始動した、学部学科横断型の共同研究プロジェクト「渋谷学」の研究成果を一般にひらくことを目的に毎年開催している。今年度は「戦前・戦後の渋谷の政治・行政と経済」をテーマに全4回の講座が行われた。

11月12日の最終回では橋元秀一・名誉教授が「現代渋谷の経済」と題して講演

II 写真。橋元名誉教授はまず、渋谷が都市としてどのように変化を遂げてきたかを概説した。1970年代から80年代にかけて、渋谷は若者がファッションや音楽、演劇など多様な文化を創造し、それらを全国へ発信する拠点としての役割を果たしていたが、90年代以降は渋谷の機能が文化創造の場から大量の宣伝で消費を促す舞台へと変質したことを指摘。また、チェーン店の増加によって個人商店が激減した結果、「渋谷らしさ」が希薄化した状況についても言及した。さらに、デパートや大手企業が購買力の高い30〜40代を主要顧客とするようになったことで、渋谷が若者中心の街から大人の街へと転換したと述べた。

最後に橋元名誉教授は、再開発が進む渋谷において、商業地として独自性を維持できるかが今後の大きな課題であると強調した。かつて若者文化を生み出してきたような創造の場を再び形成できるかどうか、渋谷の未来を左右するとの見解を示し、講座を締めくくった。

International Coffee Hour (神道DAY) を開催



国際交流課が主催するInternational Coffee Hourが11月14日、渋谷キャンパス2号館の祭式教室で開催され、K-STEP交換留学生や学部生ら30人以上が参加した。写真。

今回は「神道DAY」と称して、神楽舞サークルみすゞ会と禮法研究會の協力を得て行った。参加者らは、禮法研究會の学生から玉串拝礼の作法を習い、みすゞ会の学生と一緒に神にささげる舞の所作を練習した。初めは慣れない所作に戸惑う様子も見られたが、丁寧な指導を受けながら練習し、最後は互いの上達した姿をたたえ合う光景が見られた。

第8回オール国学院親睦ソフトボール大会を開催



第8回オール国学院親睦ソフトボール大会が11月16日、たまプラーザキャンパスで開催された。快晴の下、学校法人国学院大学の設置校および学校法人国学院大学栃木学園の役教職員からなる7チームが参加し、熱戦を繰り広げた。

開会式では、佐柳正三理事長によるあいさつと始球式の後、試合を開始した。参加者たちは親交を深めながら合計10試合を戦い抜き、法人チーム（学校法人国学院大学役教職員他で構成）が優勝を飾った。写真。

石井研士名誉教授が令和7年度文化庁長官表彰を受賞

文化庁による令和7年度文化庁長官表彰の表彰者が12月10日に発表され、石井研士名誉教授が令和7年度文化庁長官表彰を受けた。

この表彰は、文化活動に優れた成果を示し、日本文化の振興に貢献した団体・個人、または、日本文化の海外発信、国際文化交流に貢献した団体・個人に対し、その功績をたたえるため文化庁が実施している。

石井名誉教授は、宗教学、宗教社会学が専門。日本宗教連盟の学識理事として宗教文化振興のための事業活動に携わる他、宗教法人や宗教者が行ってきた社会貢献活動について学識者として社会に発信することに尽力したことや、宗教法人審議会委員を5期務め、最終期には会長として宗教界をめぐる諸問題に関わり、長きにわたって宗務行政に貢献をしている点が評価され、今回の表彰となった。

表彰式は12月17日に京都市内の会場で行われた。

嵐山光三郎・元客員教授 逝去

国学院大学元客員教授の嵐山光三郎氏が11月14日に逝去。83歳。葬儀は近親者のみで執り行われた。

嵐山氏は昭和17年生まれ。40年国学院大学文学部文学科卒業。雑誌編集者を経て作家として活躍した。平成20年度から令和6年度まで国学院大学客員教授。主な著書に『素人庖丁記』（講談社、1987年）、『文人悪食』（マガジンハウス、1997年）、泉鏡花文学賞および読売文学賞を受賞した『悪党芭蕉』（新潮社、2006年）。

教職員人事

【採用】
◆大学事務局◇専任▷久保田涼介（学術メディアセンター事務局図書館事務課書記）
（令和7年12月1日付）

令和8年度 学年暦が決定

令和8年度の学部・大学院の学年暦が決定した。
詳細は**別表**のとおり（入試関連業務を除く）。

学部学年暦	
4月1日(水)～9日(木)	オリエンテーション、履修ガイダンス等
4月2日(木)	入学式
4月10日(金)	前期授業開始
4月29日(水・祝)	祝日授業日（昭和の日）
5月1日(金)	神殿鎮座記念祭〈休講〉
5月2日(土)	校内整備〈休講〉
7月20日(月・祝)	祝日授業日（海の日）
7月23日(木)	前期授業終了（保育士課程以外の科目）
7月24日(金)～30日(木)	前期試験 ※保育士課程の科目は授業を実施
8月4日(火)～6日(木)	追試験 ※6日は予備日
8月7日(金)～9月18日(金)	夏季休暇
9月1日(火)～4日(金)	サマーセッション①
9月8日(火)～11日(金)	サマーセッション②
9月19日(土)	後期授業開始
9月21日(月・祝)	祝日授業日（敬老の日）
10月12日(月・祝)	祝日授業日（スポーツの日）
10月31日(土)	校内整備〈休講〉
11月1日(日)	国学院大学創立記念祭〈休講〉
11月4日(水)	国学院大学創立記念日〈休講〉
11月23日(月・祝)	祝日授業日（勤労感謝の日）
12月23日(水)	年内授業終了
12月24日(木)～令和9年1月6日(水)	冬季休暇
1月7日(木)	授業再開
1月16日(土)	大学入学共通テスト〈休講〉
1月20日(水)	後期授業終了（保育士課程以外の科目）
1月22日(金)～28日(木)	学年試験 ※保育士課程の科目は授業を実施
2月5日(金)～8日(月)	追試験 ※8日は予備日
3月21日(日)	卒業式
3月23日(火)～26日(金)	スプリングセッション
全日補講日…5月7日(木)、10月30日(金)、11月5日(木)、1月21日(木)	

大学院学年暦	
4月1日(水)	入学式
4月1日(水)～9日(木)	履修指導・オリエンテーション
4月10日(金)	前期授業開始
4月29日(水・祝)	祝日授業日（昭和の日）
5月1日(金)	神殿鎮座記念祭〈休講〉
5月2日(土)	校内整備〈休講〉
6月1日(月)	「修士学位申請論文題目届」提出締切（正午）
7月20日(月・祝)	祝日授業日（海の日）
7月23日(木)	前期授業終了
7月24日(金)～28日(火)	前期集中講義①
7月29日(水)～8月1日(土)	前期集中講義②
8月2日(日)～9月18日(金)	夏季休暇
9月16日(水)	博士前期課程9月修了最終試験
9月19日(土)	後期授業開始
9月21日(月・祝)	祝日授業日（敬老の日）
9月30日(水)	博士前期課程9月修了学位記授与式
10月12日(月・祝)	祝日授業日（スポーツの日）
10月31日(土)	校内整備〈休講〉
11月1日(日)	国学院大学創立記念祭〈休講〉
11月4日(水)	国学院大学創立記念日〈休講〉
11月23日(月・祝)	祝日授業日（勤労感謝の日）
12月23日(水)	年内授業終了
12月24日(木)～9年1月6日(水)	冬季休暇
1月7日(木)	授業再開
1月16日(土)	大学入学共通テスト〈休講〉
1月20日(水)	後期授業終了
1月21日(木)～25日(月)	後期集中講義①
1月26日(火)～29日(金)	後期集中講義②
2月16日(火)	【文学研究科】最終試験
2月19日(金)	【法学・経済学研究科】最終試験
3月20日(土)	学位記授与式
全日補講日…5月7日(木)、10月30日(金)、11月5日(木)	



両名は法律の勉強が日々の実務にどのように生かされているか、また、弁護士として実際に担当した具体的な事例などについて、詳細に説明。それらの事例に基づき、学生たちがグループに分かれ、弁護士の立場となつて、法的解決方法や、和解する場合の内容を話し合い、発表する実践的なセッションも設けられ、参加した学生は法曹実務の一端を体験する貴重な機会となった。

第4回は12月4日に行われ、弁護士の宮田直紀氏（あみた総合法律事務所）と平野可菜氏（弁護士法人丸の内ソレイユ法律事務所）が「弁護士に聞いてみよう」法はどこで生きる？」と題して講演を行った。

最後に参加した学生らに向けて「縁」を大切にして、巡りあわせを受け入れながら歩む人生もまた尊い。そこにこそ、人の道の調和がある」とメッセージを贈った。

今年度の第3回と第4回の法学会講演会が、渋谷キャンパスで開催された。11月18日に開催された第3回では、講師に奈良県磯城郡田原本町の高江啓史町長Ⅱ写真Ⅱを招き、「人と人の縁」がなく未来」と題して講演を行った。講演の前半では自身のこれまでの経験からキャリアにおける「縁」の意義を、後半では、まちづくりにおける「共創自治」の理念と、住民や企業など多様な主体が参画する仕組みの重要性について述べた。

法学会

講演会を開催

体育連合会が献血功労者厚生労働大臣表彰を受賞



令和7年度の献血功労者への厚生労働大臣表彰・感謝状伝達式および東京都知事感謝状贈呈式が11月28日に東京都庁第一本庁舎で行われ、国学院大学体育連合会に感謝状などが授与された。
この表彰は献血運動の推進に積極的に協力し、他の模範となる実績を示した個人および団体に贈られるもので、同会は昭和37（1962）年より継続的に協力してきたことから、今回の表彰となった。
受賞者代表として登壇した同会会長の松沢夏月さん（日文4）＝写真右＝は「私たち若い世代が主体となり、献血の輪をさらに広げていくことが社会を支える力になると信じて今後も活動を継続していきたい」と語った。

観光まちづくり学部

鎌倉市を見つめるフィールドワーク



学生からは「テーマに対して明らかにしたかったことが分かった」「意外な発見や気づきがあった」といった手応えを感じる一方、「計画していた調査手法がうまくいかなかった」「チームで意見がまとまらず苦戦した」と現地調査の難しさも体感した。今回の活動以降も学生たちは引き続き調査を進め、来年初めには選抜されたグループが最終授業で行われる合同発表会で成果を発表・共有する予定である。

観光まちづくり学部2年次必修科目「観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析）」の一環で、同学部の学生約300人が神奈川県鎌倉市内でフィールドワーク（現地調査）を実施した。
この演習は2年次から3年次にかけて段階的に専門性を高める演習科目群の中核となる科目で、学生たちがおよそ50グループに分かれて、文献調査や統計データ分析などを行いながら、例年同市を対象に地域の分析に取り組んでいる。
学生たちは11月8、9日を中心に、現地調査に臨んだⅡ写真。9日には29チームが同市を訪問し、「観光行動」「ごみ問題」「観光と防災」などそれぞれにテーマを設定し、調査を行った。
学生からは「テーマに対して明らかにしたかったことが分かった」「意外な発見や気づきがあった」といった手応えを感じる一方、「計画していた調査手法がうまくいかなかった」「チームで意見がまとまらず苦戦した」と現地調査の難しさも体感した。今回の活動以降も学生たちは引き続き調査を進め、来年初めには選抜されたグループが最終授業で行われる合同発表会で成果を発表・共有する予定である。



ホームカミングデー& 若木育成会キャンパス見学会を開催

国学院大学の院友（卒業生）が母校に集い、同級生らと旧交を温める「ホームカミングデー」と、在学生の保証人（父母ら）により構成される国学院大学若木育成会のキャンパス見学会が11月30日に開催された。写真上。

◆ホームカミングデー
ホームカミングデーは渋谷キャンパスで開催され、院友の家族らも交え、大勢の来場者が多彩な催しを楽しんだ。

午前は針本正行学長と院友会の吉田茂穂会長（昭41修・74神専攻／鶴岡八幡宮宮司）によるあいさつに続いて、藤澤紫・文学部教授が「浮世絵で読みとく江戸ライフ」・葛屋重三郎と浮世絵の黄金期」と題して特別講演を行った。同中。

午後にはスペシャルトークイベントが開催され、埼玉西武ライオンズ野手チーフ兼打撃コーチを務める、仁志敏久・本学客員教授と、同球団に所属する本学院友の武内夏暉投手（令6卒・132期健体）が登壇し、和やかにトークを繰り広げた。

また構内では院友を歓迎する催しが多数開催され、恒例の院友会支部物産展では、特産品を求めて大勢の来場者でにぎわった。キャンパスモールや有栖川宮記念ホールでは、在学生や院友による演舞なども行われたほか、各教室では学部学科やゼミごとの同窓会や在学生による企画が実施された。

若木タワー1階には強化部会の応援ブースが設置され、硬式野球部、柔道部、

陸上競技部のユニホームを展示。箱根駅伝で実際に使用するのぼりに応援メッセージを書き込むコーナーも設けられ、来場者から力強いメッセージが多数寄せられた。

◆キャンパス見学会
キャンパス見学会は渋谷・たまプラーザの両キャンパスで開催された。

渋谷キャンパスでは、父母らがそれぞれ自由にキャンパス内を見学。博物館で同日まで開催されていた企画展「中世日本の神々物語・姿・秘説」を見学したり、学食で昼食を楽しんだりする姿も見られた。就職や留学についてのガイダンスも行われ、参加者たちは熱心に耳を傾けていた。

たまプラーザキャンパスでは、冒頭の全体オリエンテーションで太田直之・同キャンパス長（人間開発学部長・教授）がキャンパスの特長に触れながら「学生が日ごろどのような環境で学んでいるのかを感じ取っていただきたい」とあいさつ。同下。続いて職員より、キャンパスのこれまでの歩みや図書館の学修支援に関わる取り組みなどが紹介された。

オリエンテーション後は、観光まちづくり学部の説明会や就職ガイダンス、さらには渋谷キャンパスで実施されたホームカミングデー企画のライブ配信も行われ、いづれも多くくの父母が参加した。このほか、学生と同じ学びの場を巡るなど、キャンパスでの日常を体験した。

インフォダイジェスト

…在学生
内容 講師 日にち 時間 場所 対象 定員 料金 申込み 問い合わせ

…保証人

…卒業生

…一般

…受験生

大学からのお知らせ

年末年始の事務休止

内 12月24日(水)から令和8年1月6日(火)まで、渋谷・たまプラーザの全事務室は閉室となります。同期間中は、学内の証明書自動発行機の利用もできません。授業開始は1月7日(水)です。

災害で被害に遭われた皆さまへ

内 令和7年11月18日に発生した大分市佐賀関の大規模火災や12月8日の青森県東方沖を震源とする地震などに伴う災害で、災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変で今後の学業生活に支障をきたすおそれのある学生は、保証人（父母等）と相談のうえ下記の大学各窓口までご相談ください。適用対象地域は本学HPや内閣府防災HPでご確認ください。

- 問 ▶ 学生生活課（☎03・5466・0145）
▶ たまプラーザ事務課（☎045・904・7714）
▶ 大学院事務課（☎03・5466・0142）

令和8年度大学院春季入学試験

内 国学院大学大学院博士前期課程および同後期課程では、令和8年度春季入学試験を実施します。日程等の詳細は本学HP（二次元コード）からご確認ください。



問 大学院事務課（☎03・5466・0142）

大学入学試験に伴う入校制限

内 令和8年度大学入学共通テストおよび本学一般選抜入学試験実施のため、会場となるキャンパスへの入校を右表の通りに制限します。なお、該当期間は課外活動を行うことができません。

◆大学入学共通テスト

日	時	立入制限区域など
1月16日(金) 入学試験準備日	終日	若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）
	16時10分以降	130周年記念5号館
	17時50分以降	120周年記念2号館
	19時30分以降	120周年記念1号館
	21時以降	3号館、総合学修館（6号館）
1月17日(土)・18日(日) 入学試験当日	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館（6号館）、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）、若木タワー、学術メディアセンター

※1月16日(金)17時から18日(日)まで国際交流センターと院友会館の通用門は封鎖。

◆本学一般選抜入学試験

日	時	立入制限区域など
A日程 1月30日(金) 入学試験準備日	終日	120周年記念1・2号館、130周年記念5号館、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）
	終日	120周年記念1・2号館、130周年記念5号館、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）
	15時以降	3号館
	17時以降	総合学修館（6号館）
	18時10分以降	学術メディアセンター（博物館を除く）
A日程 1月31日(土) 入学試験準備日	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館（6号館）、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）、若木タワー、学術メディアセンター（博物館を除く）
	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館（6号館）、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）、若木タワー、学術メディアセンター（博物館を含む）
B日程 2月27日(金) 入学試験準備日	終日	120周年記念1・2号館、130周年記念5号館、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）
	終日	120周年記念1・2号館、130周年記念5号館、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）
	15時以降	3号館
	17時以降	総合学修館（6号館）
	18時10分以降	学術メディアセンター（博物館を除く）
B日程 2月28日(土) 入学試験準備日	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館（6号館）、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）、若木タワー、学術メディアセンター（博物館を除く）
	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館（6号館）、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）、若木タワー、学術メディアセンター（博物館を含む）
B日程 3月1日(日) 入学試験準備日	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館（6号館）、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）、若木タワー、学術メディアセンター（博物館を除く）
	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館（6号館）、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）、若木タワー、学術メディアセンター（博物館を含む）

※1月31日(土)17時～2月4日(水)、2月28日(土)17時～3月2日(月)は国際交流センターと院友会館の通用門は封鎖。
※博物館の開館日は、博物館HPをご確認ください。

日	時	立入制限区域など
A日程 1月31日(土) 入学試験準備日	14時以降	1・2・3・5号館、Sports Square1・3、若木21
	終日	
	終日	
B日程 2月28日(土) 入学試験準備日	14時以降	
	終日	
	終日	

— 前編 —

臨床心理学をもっと身近に

支援 と 予防

をつなぐ まなざし

研究
者に
聞く

教育開発推進機構・内村慶士助教

うちむら・やすし

博士(教育学)。専門は大学教育および産業・組織心理学。臨床心理士、公認心理師。東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース博士課程修了後、令和5年より現職。本学の合理的配慮や全学的な学修支援に携わっている。著書に『仕事からの切り替え困難に対する心理的支援』(東京大学出版会、2023年)がある。

全編はこちらから



後編



前編



学校の先生とは違った方法で一人ひとりと向き合いサポートできるのではと予感

近年特に力を入れて取り組んでいるのは、臨床心理学の知見をベースにした学修相談や心理相談です。これは主に本学の学生を対象としていて、「学修支援センター」を起点にさまざまな活動に取り組んでいます。一方で学外でも、たとえばゲームの人たちのメンタルケアに关してイベントでブースを出してみたり、Vtuberをはじめとしたゲーム実況者などのメンタルヘルスについて考えはじめていたり、すこしずつ活動の輪を広げているところです。

こうした詳細についてはインタビューの後編でお伝えすることになりますが、現在の実践に至るまでに何を考え、試行錯誤を重ねてきたのかということ、まずはお話しできればと思っています。そのことによって、臨床心理学が私たちの日常ととても近い学問であるということ、すこしづつ伝えられれば、と。

大学に入学した当初は、かつて教わった恩師が素晴らしい方だったということもあって、中学校の教師になりたいと思っていました。そこからだんだんと考えが変わっていった。教員の先生方への尊敬の念はそのまま抱きつつも、生徒一人ひとりが抱えている困りごとやその背景にアプローチしていくことはできないだろうか……と考えるようになっていきました。

教員の方々が大変多忙なのは多くの人がご存知だと思います。その日々のなか、どうしても対応がとれない生徒個々の状況というものがある。そこに自分が何か寄与できることはないだろうか、と感じるようになったんです。やがて出会ったのが、臨床心理学という分野でした。

たとえば臨床心理学において有名な概念に、ジョージ・エンゲルという精神科医が唱えた「生物・心理・社会モデル (bio-psycho-social model)」というものがあります。これは人が抱える精神的な問題というもの、生物学的な要因、心理的な要因、そして社会的な要因に分けつつその相互関係のなかで、多面的・包括的に捉えていく、というものです。

私が当初教育の現場を志し、その過程でだんだんと見えてくるようになった生徒一人ひとりと向き合うことをめぐる課題というものに、臨床心理学を通じてなら、うまく応えることができるかもしれない。教員とはまた違った方法で、生徒たちのことを密接にサポートできるのではないかと、そんな予感を抱きました。

問題を問題として認識しなくなるような方法を探るアプローチ

こうした臨床心理学の知見や技術に基づいて実践に移していく、臨床心理士という専門家の仕事があります。私が臨床心理学の道に進んでみようと思った理由としては、やはりこうした現場での実践に直結した分野であるということが大きかったのです。

もちろん、さまざまな仕事の仕方が存在します。相談に来た人の悩みや困りごとに耳を傾けて、一緒にその問題がなくなるような解決策を探っていく場合もありますし、問題を問題として認識しなくなるような方法を探る場合もあります。

問題を問題として認識しなくなる、というと、どういうことだろうと思われる方もいるかもしれません。これは、その人が認識したことによって「問題」がそこに成立している、という考え方をとるということです。つまり、別の視点から見ればそれは「問題」ではなくなる、問題とされる状況は変わらないけれどもそこに「問題」は成立しなくなる、ということもあります。専門的には「ナラティブ・アプローチ」と呼ばれます。

具体的にいえば、教室で自分が周りから「浮いている」と感じている人がいて、なんとか馴染まなきゃいけないと苦しんでいるとしたましよう。ここには「問題」が成立しています。さて、困りごとを当人が話し、臨床心理士が聞いていくなかで、いや、それは別に浮いていてもいいんじゃないか、自分が他人よりちよつと変わっているくらいの方がいいのでは、という考え方にふたりで至ることができたとする。すると、教室での状況は変わってはいないけれども、そこにあった「問題」は姿を消すわけです。

このようにいろいろな方法を含んでいる臨床心理学の世界に、私は一気に惹かれ、その門戸を叩いたのです。

困りごとを事前に“予防”する方法を探る研究

ここまで度々実践という言葉を用いているのですが、これもやはり臨床心理学の分野で重要な概念とされている、「科学者実践家モデル (scientist-practitioner model)」ないしその修正版である「実践家研究者モデル (practitioner-scholar model)」に基づいています。

ごく大雑把に説明しますと、実践でわかったことや問題意識を研究につなげ、そして研究で明らかになったことを現場に還元していく——この循環を大事にしましょう、というモデルです。自分の勘のみに基づいた実践は危なっかしいし、実践から離れて研究だけしていてもなかなか役には立たない。やはりその双方を循環させるのが重要なのだと自分の指導教授の先生もおっしゃっていて、自分もその通りだと思い、できるかぎりの研鑽を積んできました。

たとえばその取り組みのひとつが、後に加筆・修正のうえ『仕事からの切り替え困難に対する心理的支援 持続可能な働き方の実現のために』(東京大学出版会、2023年)という書籍にまとめることになった博士論文でした。実際に働いている方々から提供いただいたデータを分析しながら、その困りごとをできるだけ事前に「予防」する方法を探る研究です。

この「予防」という観点、現在本学で取り組んでいる学修相談や心理相談などに直結しています。インタビューの後編では、こうした近年の取り組みのことも合わせてお話しできればと思います。

国学院大学メディア

「人間の学が知の乾きを潤す」
国学院大学が蓄積し醸成してきた知恵を
多彩なスタイルで紹介します。



第21回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト

折口信夫賞に日本大学三島高 地理・歴史部



折口信夫賞

「三島の郷土民謡農兵節について」(静岡・日本大学三島高 地理・歴史部)

地域文化研究部門

団 体

最優秀賞 「三島の郷土民謡農兵節について」(静岡・日本大学三島高 地理・歴史部)

優 秀 賞

「心を一つに！ 聖なる首里クエーナの魅力」(沖縄・沖縄尚学高 地域研究部 梨梨ガールズ)
「釜の蓋まんじゅうに関する考察～『渡辺清絵日記』から見る地域の伝統文化～」(栃木・矢板東高 リベラルアーツ同好会)

個 人

最優秀賞 「妖怪ツーリズムは近年どのように変化したのか 妖怪による近年の地域創生を追う」神田明玲(東京・渋谷教育学園渋谷高2年)

優 秀 賞

「和紙文化を未来へ繋ぐ 伝統と変容の調和」河本有真音(岡山・山陽学園高2年)
「伝統舞踊の継承の難しさ～国場ウズンピーラを例にして～」那野原弘督(沖縄・沖縄尚学高2年)

地域民話研究部門

団 体

最優秀賞 「河野氏関連の伝承調査～衛門三郎伝承と御面雨乞い～」(愛媛・松山北高 郷土研究部)

優 秀 賞

「和泉地区発・青葉の笛をつなぐ3～義平とおみつ 乱世に咲いた恋～」(福井・大野高 JRC「結」)

個 人

最優秀賞 「室伏半蔵伝承からみる社会事業と日蓮宗」渡邊正太郎(静岡・富士高3年)

学校活動部門

最優秀賞 「地元伝わる『鹿島の金貨水神伝説』の絵本製作・普及活動」(静岡・浜名高 史学部)

優 秀 賞

「八郎様・石祠・文化六年～源為朝を巡る歴史の矢を放つ試み～」(福岡・朝倉高 史学部)
「伊勢崎めいせん学」(群馬・伊勢崎高 家庭クラブ「伊勢崎めいせん学」)

最優秀賞受賞者 喜びの声

3年連続で最優秀賞を受賞することができ、とてもうれしく思います。高校生活での研究活動に心残りはありません。伝承文化の継承は、自分の地域のアイデンティティを失わないようにするためにも重要であると考えます。伝承文化の魅力としては、史資料にはあらわれない、過去の人々の営みを垣間見られるということが挙げられると思います。

地域民話研究部門(個人)

渡邊正太郎さん(静岡・富士高)

地域民話研究部門(団体)

愛媛・松山北高 郷土研究部 代表 安部大晟さん

私たち松山北高等学校は、先輩から受け継い4年連続受賞校というプレッシャーの中で研究を始めました。はじめは分からないことが多く不安でしたが、研究を進めるうちに、理解が深まり意欲も高まっていき楽しみなが活動できました。込めた思いが強い作品だったので受賞したと先生から知らされたときは本当にうれしかったです。

地域文化研究部門(個人)

神田明玲さん(東京・渋谷教育学園渋谷高)

まさか受賞できるとは思っておらず、しばらく信じられませんでした。友人や家族に祝ってもらううちに、一生懸命書いた論文が評価されたんだという実感が湧いてきて、とても嬉しかったです。私が研究した「妖怪ツーリズム」は、地域に根づく妖怪の伝承を観光に活用するという地域振興策です。この研究を通して、伝承文化はまだまだ輝けると確信しました。

地域文化研究部門(団体)

静岡・日本大学三島高 地理・歴史部 代表 堤彰人さん

自分たちが研究した作品がこのような素晴らしいコンテストで最高賞の折口信夫賞を受賞することができ、とても光栄です。三島農兵節普及会の方や本校の校長先生など多くの人に聞き取りをし、できる限り正確で詳細な内容を発表できるようにしました。私たちの学校がどれだけ地元根付き、どのくらい地元を支えられてきたかということを知ることができました。

俳句の部

奥田羊歩さん(群馬・高崎女子高)

私の作品を最優秀賞という評価をして頂き、ありがとうございます。恐れ多いながらも喜びでいっぱいです。

短歌の部

細田弥生さん(千葉・成田国際高)

この度は最優秀賞に選出いただき、ありがとうございます。まさか自分が最優秀賞を受賞できるとは思っていなかったため、いまだに実感がわかないほどです。

現代詩の部

菊池大和さん(岡山・津山工業高専)

こまで続けることができました。この経験を大切に今後も精進していきます。

短編小説の部

下村桜子さん(岩手・大船渡高)

最優秀賞をいただき、光栄に思っています。自分の作品が誰かに届いたことに大きな喜びを感じました。以前から書籍に関わる進路を希望しており、今回の受賞を励みとして、これからも努力したいと思っています。

現代詩の部

菊池大和さん(岡山・津山工業高専)

こまで続けることができました。この経験を大切に今後も精進していきます。

短歌の部

細田弥生さん(千葉・成田国際高)

この度は最優秀賞に選出いただき、ありがとうございます。まさか自分が最優秀賞を受賞できるとは思っていなかったため、いまだに実感がわかないほどです。

現代詩の部

菊池大和さん(岡山・津山工業高専)

こまで続けることができました。この経験を大切に今後も精進していきます。

短編小説の部

下村桜子さん(岩手・大船渡高)

最優秀賞をいただき、光栄に思っています。自分の作品が誰かに届いたことに大きな喜びを感じました。以前から書籍に関わる進路を希望しており、今回の受賞を励みとして、これからも努力したいと思っています。

現代詩の部

菊池大和さん(岡山・津山工業高専)

こまで続けることができました。この経験を大切に今後も精進していきます。

短歌の部

細田弥生さん(千葉・成田国際高)

この度は最優秀賞に選出いただき、ありがとうございます。まさか自分が最優秀賞を受賞できるとは思っていなかったため、いまだに実感がわかないほどです。

現代詩の部

菊池大和さん(岡山・津山工業高専)

こまで続けることができました。この経験を大切に今後も精進していきます。

短編小説の部

下村桜子さん(岩手・大船渡高)

最優秀賞をいただき、光栄に思っています。自分の作品が誰かに届いたことに大きな喜びを感じました。以前から書籍に関わる進路を希望しており、今回の受賞を励みとして、これからも努力したいと思っています。

現代詩の部

菊池大和さん(岡山・津山工業高専)

こまで続けることができました。この経験を大切に今後も精進していきます。

短歌の部

細田弥生さん(千葉・成田国際高)

この度は最優秀賞に選出いただき、ありがとうございます。まさか自分が最優秀賞を受賞できるとは思っていなかったため、いまだに実感がわかないほどです。

現代詩の部

菊池大和さん(岡山・津山工業高専)

こまで続けることができました。この経験を大切に今後も精進していきます。

短編小説の部

下村桜子さん(岩手・大船渡高)

最優秀賞をいただき、光栄に思っています。自分の作品が誰かに届いたことに大きな喜びを感じました。以前から書籍に関わる進路を希望しており、今回の受賞を励みとして、これからも努力したいと思っています。

現代詩の部

菊池大和さん(岡山・津山工業高専)

こまで続けることができました。この経験を大切に今後も精進していきます。

短歌の部

細田弥生さん(千葉・成田国際高)

この度は最優秀賞に選出いただき、ありがとうございます。まさか自分が最優秀賞を受賞できるとは思っていなかったため、いまだに実感がわかないほどです。

現代詩の部

菊池大和さん(岡山・津山工業高専)

こまで続けることができました。この経験を大切に今後も精進していきます。

高校生コンテスト入賞作品決定

全国から応募総数1万5897点

国学院大学とスクールパートナーズ(高校生新聞社)による第29回全国高校生創作コンテスト(協賛:国学院大学若木育成会・国学院大学学院友会・国学院大学北海道短期大学部・後援:文部科学省・全国高等学校長協会・全国高等学校国語教育研究会・日本進路指導協会)と、第21回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト(協賛:国学院大学若木育成

会・国学院大学学院友会・国学院大学北海道短期大学部・後援:文部科学省・農林水産省・全国高等学校長協会・日本進路指導協会)の入賞作品が決まり、12月7日に渋谷キャンパスで表彰式が行われた。両コンテストには全国の高校生が合わせて1万5897点の力作が寄せられた。※両コンテストの各部門の最優秀作品は本紙令和8年2月号に掲載予定

「地域の伝承文化に学ぶ」コンテストは、地域に伝わる伝説や昔話、行事、方言、郷土料理といった身近な地域社会に目を向け、高校生に連綿と伝わる地域の文化に向き合ってもらうことを目的として開催。本学が有する伝承文化に関する資産に触れることで研究を深めてもらうことも狙っている。21回目を迎えた今回は全国から116点の応募があった。内訳は、地域文化研究部門が団体28点、個人55点、地域民話研究部門が団体4点、個人22点、学校活動部門が7点。最も優れた研究に贈られる折口信夫賞に地域文化研究部門(団体)最優秀賞の「三島の郷土民謡農兵節について」(静岡・日本大学三島高 地理・歴史部)が選ばれたほか、各部門の最優秀賞、優秀賞が別表(敬称略)のように決まった。

地域文化研究部門(団体)

【佳作】「みのかも定住自立圏・高校生聞き書きプロジェクト2025」(岐阜・関高 地域研究部・文芸部) 【諏訪地域の社と小宮祭】地域の御柱(Ⅱ)(長野・諏訪清陵高 課題研究41班) 【妖怪と地域社会との関わり】妖怪についての現地調査に取り組んで(徳島・池田高 妖怪文化班)

地域文化研究部門(個人)

【佳作】「地元の祭りとまちづくりの関連性」新湊の獅子舞が直面する伝承の危機(境運来威(富山・新湊高3年) 【弦楽合奏による防災てんでんこ開発を目指して】アイヌ民族の歌と踊りに見る自然現象表現の応用的試み(横内敬子(東京・お茶の水女子大学附属高1年) 【甲山甘日えびすの謎ー開港時期の視点からー】重宗汰朗(広島・世羅高3年)

地域民話研究部門(団体)

【佳作】「和歌山県田辺市龍神村に伝わるゴウラの民話のできた背景と類似の民話とのつながりを考える」(和歌山・田辺高 古久保と竹中)

地域民話研究部門(個人)

【佳作】「川内川流域における神話と史実の関係について」尾室美詞(鹿児島・鹿児島高1年) 【夜刀神】一角を持った蛇の伝説(立田裕美子(茨城・水城高2年) 【妖怪伝承が後世にまで伝わっているのは何故か】吉岡大翔(東京・佼成学園高2年)

審査員(敬称略)

小川直之(本学名誉教授) 大石泰夫(本学文学部教授) 八木橋伸浩(玉川大学名誉教授) 伊藤龍平(本学文学部教授) 飯倉義之(本学文学部教授) 高橋大助(本学文学部教授) 服部比呂美(本学文学部教授)

第29回全国高校生創作コンテスト

文部科学大臣賞に 慶応義塾湘南藤沢高等部(神奈川)



文部科学大臣賞

慶応義塾湘南藤沢高等部(神奈川)

特別学校賞

千葉県安房西高(千葉)

短編小説の部

最優秀賞 「潮の香るベンチで水平線を書く」下村桜子(岩手・大船渡高2年)

優秀賞 「地方争生」千葉蒼大(神奈川・慶応義塾湘南藤沢高等部3年)

優秀賞 「路傍の人」落合咲奈(東京・トキワ松学園高2年)

現代詩の部

最優秀賞 「大欠伸」菊池大和(岡山・津山工業高専3年)

優秀賞 「ボトルメール」豊島穂南(愛知・時習館高3年)

優秀賞 「水槽のはなし」鈴木愛音(東京・国際基督教大学高3年)

短歌の部

最優秀賞 細田弥生(千葉・成田国際高3年)

優秀賞 浅井睦(埼玉・大宮高1年)

優秀賞 若本果穂(北海道・札幌視覚支援学校3年)

俳句の部

最優秀賞 奥田羊歩(群馬・高崎女子高3年)

優秀賞 武藤理央(群馬・高崎女子高2年)

優秀賞 富田輝(愛知・名古屋高1年)

主催者あいさつ・祝辞(要旨)

●全国高校生創作コンテスト

【主催者あいさつ】

石川則夫副学長

自己表現への思いを自らの言葉で日本文学の様式に組み込む努力は大変重要です。学びにおいて知り得た文学表現の諸形式を自らの表現としてアウトプットする創作表現という行為は、実に有意義な経験と言えるだろう。今後さらに自身の言葉を磨き上げていってもらいたい。

【祝辞】 若木育成会・半田りえ子会長 文学による自己表現は、推敲を重ねながら文字通り「創作」し言葉を紡いでいく苦悩の中にも、心地良さがあるのではないだろうか。本コンテストを一つの契機として「創作の翼」がより大きく、力強くはばたき、今後も魅力的な作品を生み出すことを期待している。

【祝辞】 若木育成会・半田りえ子会長 文学による自己表現は、推敲を重ねながら文字通り「創作」し言葉を紡いでいく苦悩の中にも、心地良さがあるのではないだろうか。本コンテストを一つの契機として「創作の翼」がより大きく、力強くはばたき、今後も魅力的な作品を生み出すことを期待している。

【祝辞】 若木育成会・半田りえ子会長 文学による自己表現は、推敲を重ねながら文字通り「創作」し言葉を紡いでいく苦悩の中にも、心地良さがあるのではないだろうか。本コンテストを一つの契機として「創作の翼」がより大きく、力強くはばたき、今後も魅力的な作品を生み出すことを期待している。

【祝辞】 若木育成会・半田りえ子会長 文学による自己表現は、推敲を重ねながら文字通り「創作」し言葉を紡いでいく苦悩の中にも、心地良さがあるのではないだろうか。本コンテストを一つの契機として「創作の翼」がより大きく、力強くはばたき、今後も魅力的な作品を生み出すことを期待している。

【祝辞】 若木育成会・半田りえ子会長 文学による自己表現は、推敲を重ねながら文字通り「創作」し言葉を紡いでいく苦悩の中にも、心地良さがあるのではないだろうか。本コンテストを一つの契機として「創作の翼」がより大きく、力強くはばたき、今後も魅力的な作品を生み出すことを期待している。

【祝辞】 若木育成会・半田りえ子会長 文学による自己表現は、推敲を重ねながら文字通り「創作」し言葉を紡いでいく苦悩の中にも、心地良さがあるのではないだろうか。本コンテストを一つの契機として「創作の翼」がより大きく、力強くはばたき、今後も魅力的な作品を生み出すことを期待している。

【祝辞】 若木育成会・半田りえ子会長 文学による自己表現は、推敲を重ねながら文字通り「創作」し言葉を紡いでいく苦悩の中にも、心地良さがあるのではないだろうか。本コンテストを一つの契機として「創作の翼」がより大きく、力強くはばたき、今後も魅力的な作品を生み出すことを期待している。

【祝辞】 若木育成会・半田りえ子会長 文学による自己表現は、推敲を重ねながら文字通り「創作」し言葉を紡いでいく苦悩の中にも、心地良さがあるのではないだろうか。本コンテストを一つの契機として「創作の翼」がより大きく、力強くはばたき、今後も魅力的な作品を生み出すことを期待している。

高校生向けコンテスト

「入賞作品集」を制作中

今回のコンテスト入賞作品を掲載した「全国高校生創作コンテスト入賞作品集」「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト入賞作品集」を来年2月下旬に刊行の予定です。両作品集は2部まで(1名につき)、無料配布いたします。発送をご希望の場合は、希望部数と送付先を下記までご連絡ください。

国高校生新聞社コンテスト事務局
(☎042・724・2750)

陸上競技部

箱根駅伝 エントリー選手発表

令和8（2026）年1月2、3日に開催される第102回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）に出場する全21チームのエントリー選手が12月10日、関東学生陸上競技連盟から発表された。国学院大学陸上競技部のエントリー選手16人とその大会への意気込みを紹介する。

1面に関連記事

エントリー選手



上原 琉翔（健体4）
チーム目標である総合優勝に向け、この1年間練習を積んできました。長い距離への対応力も高まっており、絶対に勝ちたいこの大舞台で、すべての力を発揮し、勝利をつかみます。



後村 光星（健体3）
昨年の悔しさを胸に、夢の舞台でリベンジを果たします。自分と向き合い地道に練習に取り組んだ事を自信に、チームの流れを引き寄せる走りで優勝に貢献します。



吉田 蔵之介（経3）
昨年果たせなかった思いを胸に、今年こそ「想いをつなぐ」駅伝で結果を残します。故障なく積み重ねてきた練習に自信を持ち、チームを優勝に導きます。



尾熊 迅斗（健体2）
昨年走れなかった箱根路は幼いころからの夢の舞台。走りこんだ手応えと冷静な判断力を生かし、インパクトのある走りでチームを初優勝へ導きます。



青木 瑠郁（健体4）
走るだけではない魅力がある箱根駅伝。副将として、個人よりもチームの総合優勝に全てをかけます。この1年間の練習で培ったスタミナを発揮し、最後の大仕事に挑みます。



辻原 輝（史3）
地元・二宮を走る箱根駅伝は憧れてきた大舞台。これまでの悔しさを力に変え、大舞台でも緊張しない走りで区間賞を狙い、優勝に貢献できるよう全力を尽くします。



浅野 結太（経営2）
チームの目標である初優勝を必ず成し遂げます。この1年で培ったメンタルの強さを武器に、憧れの舞台で区間賞を狙う走りを見せ勝利に貢献します。



鼻野木 悠翔（法2）
箱根駅伝は陸上を始めたころからの“将来の夢”。地道に積み上げてきた練習を力に変えて区間賞を目指し、総合優勝に最大限貢献します。



嘉数 純平（健体4）
昨年の悔しさを胸に、チームとともに青春をかけて積み上げてきたこの1年。その成果を力に変えて、任された区間で流れを作り、チームを悲願の優勝へ導きます。



永田 智基（観まち3）
支えていただいた方々への恩返しをする最高の舞台です。故障なく練習を継続できた強みを形にし、持てる力を尽くしてチームにいい流れを引き寄せます。



飯國 新太（法2）
全日本駅伝の悔しさを忘れず、憧れの舞台でリベンジを果たします。長い距離にも自信を持って走り、チームに流れを呼び込みます。



高石 樹（健体1）
お世話になった4年生のためにも、しっかりと走り優勝を目指します。後期にこなした練習を力に変え、歴代記録を更新してチームの勝利に貢献します。



高山 豪起（法4）
過去の悔しさを胸に、4年間の集大成となる走りを見せます。チームの結束力が問われる舞台で、磨いてきたスピード・持久力を武器に、必ず結果を残します。



野中 恒亨（健体3）
箱根駅伝は最大の目標にして、集大成を示す大舞台。走行距離を積み上げて鍛えたスタミナを発揮し、任された区間で区間賞を目指し、初優勝に貢献します。



岡村 享一（経営2）
当日変更となった昨年の悔しさを胸に、今年こそ夢の舞台でリベンジします。安定した練習を力に変え、流れを変えるゲームチェンジャーとしての役割を担います。



野田 顕臣（健体1）
総合優勝に貢献できるような走りで、地元へ元気を届けます。粘りの走りという強みを生かして、最後まで走り、必ず区間賞を獲得します。

沿道での観戦・応援に関する注意事項

箱根駅伝の観戦・応援にあたっては、大会主催者が要望する次の「お願い」をご確認の上、順守してください。最新の内容は主催者HPでご確認ください（二次元コード）。



沿道での観戦・応援に関する禁止事項など（主催者HP・応援実施要項より抜粋）

- 以下の行為が確認された場合、以後の応援活動が全面的に禁止されるほか、次回以降の大会参加において応援活動が制限される場合があります。
- スタート地点、フィニッシュ地点、日本橋橋上、日本橋北詰交差点、京橋交差点付近、中継所の前後100m以内での校旗、部旗、大学名あるいは校章などを表示する横幕、小旗、のぼり等を掲出した場合。
 - 沿道の公共物である電柱やガードレール、フェンス、街路樹等に横幕、旗、のぼり等をくくり付けた場合。
- ※小旗やのぼりの掲出は可能な限り控え、脚立、ラジコン・ドローン、自撮り棒は使用しないでください。

メッセージ募金のお願い

国学院大学では現在、オンライン上から陸上競技部のメンバーへの応援メッセージを直接投稿できる「メッセージ募金」（寄付）を募集しております。クレジットカード決済によりワンコイン（500円）から寄付が可能で、年間2,000円を超える場合は税制上の優遇措置を受けることができます。匿名での申し込みも可能ですので、箱根駅伝初優勝に向けて奮闘する陸上競技部へのご声援よろしくお願いたします。

※メッセージ募金HP（二次元コード）上の「寄付目的」欄を変更いただくことで陸上競技部以外へのメッセージ募金・寄付の申し込みも可能となります。

関財務部経理課（☎03・5466・0115）



復路 1月3日(土)
(箱根芦ノ湖→大手町)

